

令和3年度Sport in Life推進プロジェクト
(ターゲット横断的なスポーツ実施者の増加方策事業)

新型コロナウイルス感染症対策を含む、
運動会実施によるスポーツ実施者増加方策

令和4年2月18日

一般社団法人 運動会協会



Sport in Life

令和3年度 Sport in Life推進プロジェクト (ターゲット横断的なスポーツ実施者の増加方策事業) 事業報告概要

代表団体

一般社団法人 運動会協会

事業タイトル

新型コロナウイルス感染症対策を含む、
運動会実施によるスポーツ実施者増加方策

構成団体 一般社団法人 未来の体育を構想するプロジェクト、美津濃株式会社、社団法人 追手門学院大学社会学部社会学科スポーツ文化学専攻 上林研究室、株式会社運動会屋、学校法人 自由学園 最高学部

対象テーマ コロナ禍

実証フィールド(地域) 日本全国

事業内容サマリ

運動会は毎年全国で70000回以上開催1000万人以上が参加する学校、地域、会社等で自主的に行われるスポーツイベントであり、運動会は生活の中でのスポーツ(Sports in Life)への理解や興味の入りのような役割を担っていると考えられる。運動会主催者たちが情報交換するイベントとコミュニティをつくり、感染症対策等の運動会の方法や開催意義を言語化し共有。同時に全国の運動会の状況を調査し今後の運動会に活かすことでスポーツ実施者増加に寄与する

ターゲット

●本増加方策のターゲット

運動会に関わる総ての国民

毎年70000回1000万人以上が参加

新型コロナで困った運動会主催者たち

その運動会に参加する子供や大人

●ターゲットのスポーツ実施を促すポイント(仮説)

運動会無くなったらスポーツ実施人口減るでしょ?

新型コロナで運動会中止にならないように感染対策教えます。

全国の運動会の情報をあつめて・共有できるようにします。

事業の実施概要

オンライン運動会サミットの開催



全国10ヶ所から状況共有

感染対策レクチャー



運動会についての対話
なぜ・どうやって



各地で運動会開催

運動会の互助コミュニティ

運動会サミットの効果を調査分析

2678校の運動会を調査・分析

スポーツ庁から事業報告として共有

新型コロナで
運動会どうする?

そもそも
運動会ってどうなってるの?

令和3年度 Sport in Life推進プロジェクト (ターゲット横断的なスポーツ実施者の増加方策事業) 事業報告概要

代表団体

一般社団法人 運動会協会

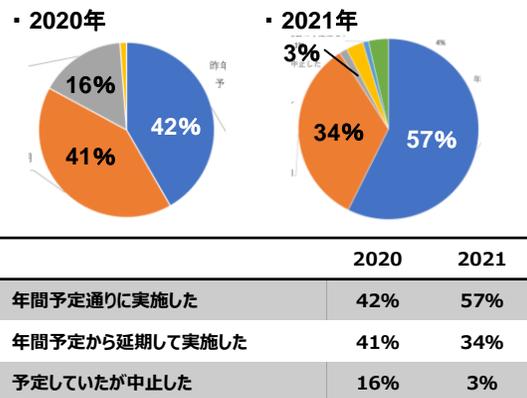
事業タイトル
新型コロナウイルス感染症対策を含む、
運動会実施によるスポーツ実施者増加方策

効果検証の方法と結果

「運動会サミット」のみに留まらず、全国の運動会実施状況の調査やサミット実施後の参加者や参加者によって企画された運動会を体験した生徒への調査など一帯的な事業とすることで、運動会実施を入り口とした長期的なスポーツ実施者増加について検証をおこなった。

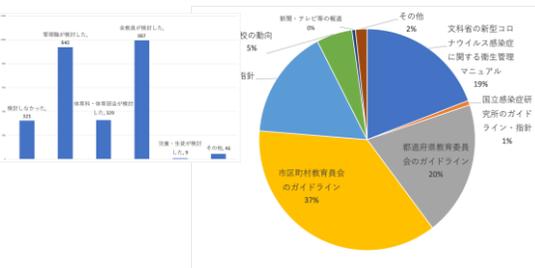
■調査A：全国小中学校の運動会実施状況：全国小中高等学校2678校（有効回答39.9%）

【2020年2021年の運動会実施状況について】



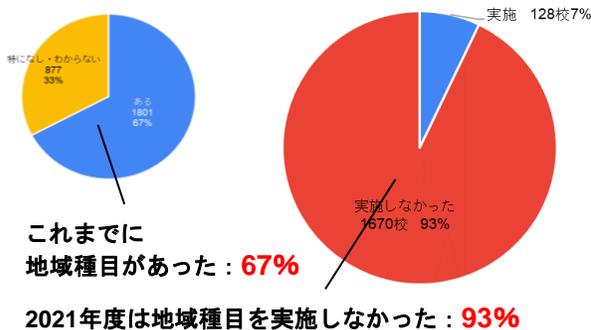
学校運動会の実施状況は **83%から91%に増加**
中止した学校も **16%から3%に減少**

【運動会の検討について】

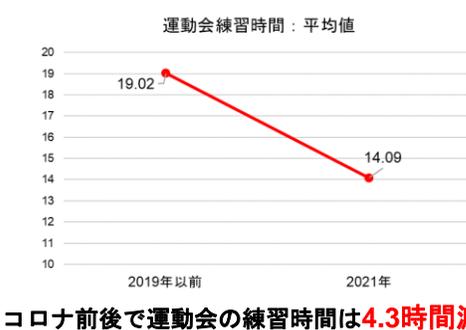


- ・運動会の検討に関わったのは **全教員、ついで学校の管理職**
- ・**73%**が学校の地域の情報を元に決定
市区町村教育委員会ガイドライン：37%
都道府県教育委員会のガイドライン：20%
校長会：16%

【地域種目の有無／2021年の地域種目の実施について】



【体育時間以外の運動会の練習時間の変化】



結果に基づく要因の分析（仮説検証）

【運動会サミットの効果】

・調査Bからサミット参加による「意識の変容」、「情報の共有」、「課題の発見」など自らの意見の変化や情報共有、課題発見などサミット実施による効果が一部示された。

【情報共有と運動会実施との関係性】

・これまで運動会の全国の事例を見る機会がなく情報共有に価値を見出している先生が多い。
・特にコロナ禍における感染症対策に関する情報が有益との意見が多かった。

【コロナ禍の運動会に見るスポーツ実施意欲】

・調査Cから運動会実施による子どもたちの肯定的意見が示された。学校生活における生徒たちの運動意欲を喚起する運動会の役割が一部示された。

→**運動会実施に繋がる情報共有の重要性と、運動会実施による子どもたちのスポーツ実施意欲の喚起**について定性的調査によって抽出できた。今後、アンケート調査など定量的調査と分析に課題を残している。

今後の展開

- ・コロナで運動会が減ったからスポーツ実施人口は減った。
- ・運動会は学校、地域、企業があうスポーツ生活・文化の接点だと仮説していたが、時代の変化で**個別化**していた。新型コロナの影響で個別化は加速。
- ・しかし主催者たちは**運動会に生活や文化の接点を求めている**。
- ・運動会は変化・共創され続けるので、引き続き調査し分析することで**時代にあった運動会を共創しやすくできる**だろう

【運動実施機会のコロナ前・コロナ後比較】

・コロナ禍を通して、運動会の練習時間が有意に短くなっていった。
・実施にあたり観客数や種目数、時間を減らして行われている。
→**運動会を盛り上げていくことにより、日本全国の子どもたちの運動実施の機会を取り戻すことに繋がる。**

【学校運動会と地域との関係】

・地域の方が参加する種目を設けていた学校は67%と多くの運動会が学校と地域が交わる行事であったことが伺える。
・コロナ禍で運動会を実施するために地域の方の参加を中止した学校が93%。
→**コロナによって、学校と地域との接点が激減。運動会の実施は地域の運動機会創出にもつながる可能性。**

【学校における運動会の重要性】

・昨年度と今年度の実施状況比較から、感染症対策などが共有されつつあり中止する学校は減少傾向にある。
→**学校にとって運動会という行事は学校教育において必要とされていることがわかる。**